

校内研修計画

甲州市立井尻小学校

1 学校課題

本校の67人の子どもたちは、のびのびと明るく活動的である。何事にも真面目に取り組む児童が多く、恵まれた自然環境のなか、様々なことに興味をもち意欲的に活動している。単学級のため、友人関係が固定化している面もあるが、休み時間や放課後には学年を越えた交流もあり、諸活動でも上級生が下級生の面倒をよく見ている姿を目にする。学習面では、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多く、宿題はもちろん、授業の復習や計算練習、漢字練習等を自主学習ノート(いじりの子ノート)にも取り組んでいる。また、朝読書、本の読み聞かせ等を通して読書活動も活発である。しかし、全ての学習の基礎・基本となる言語に関する知識理解や文章を正しく読み取る力、聞く姿勢や聞き取る力、自分の考えを言葉や文章で表現する力、対話することで考えを深め、発表につなげる力などは、まだまだ十分とはいえない。

このような児童の実態を受け、年度当初に「学ぼうれしきや楽しさを児童一人ひとりが感じ、もっとできるようになりたいという意欲がもてる授業」「確かな学力の保証と基礎・基本の定着」「WEBQUを活かした学級集団づくり」「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり」「心を豊かにする読書活動」等に取り組むことなどが学校経営の概要で示され、全職員が同一歩調で取り組んでいくことが確認された。

2 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

～個別最適な学びと協働的な学びの日常化～(3年目)

3 主題設定の理由

昨年度も、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善～個別最適な学びと協働的な学びの日常化～という研究テーマのもと、甲州市「確かな学力」育成プロジェクト委員会の、人づくりを基盤とした授業づくりを進めてきた。個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実することによって「主体的・対話的で深い学び」となる授業の改善を行ってきた。このような研究の成果を受けて、今年度も、1人1台端末を基盤として単元を通して学習者主体の視点を重点とする授業改善を目指し、児童が学習内容や学習形態を選択する学びを目指すことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をしていきたい。また、昨年度の反省から、学習を通して児童がどの場面でもどのように変容したか、どんな学びの瞬間があったかなどの共有をしていきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 確かな学力の育成

- ・「主体的・対話的で深い学び」に対する理解と研修
- ・授業改善への意識とわかって楽しい授業づくり
- ・1人1台端末の効果的活用の日常化、職員間で、お互いに公開し合い、学び合う機会を持つ。
- ・各教科、行事、特別活動、総合的な学習の時間と関連するユニバーサルデザインを意識した授業づくりを行う。
- ・言語力の基礎を育む日常的な取り組み(音読、発表、書く活動、語彙を増やす活動、読書等)の

工夫を行う。

- ・文献や先行研究実践事例を調べ、多くの情報の中から研究につながるものを収集する。

(2) 家庭との連携を行う。

- ・「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習(いじりの子ノート)・デジタル家庭学習の指導・活用推進
- ・家庭学習の習慣化、「家庭学習スタンバイ」の取り組みの徹底

(3) 甲州市 夢をかなえる学びのプロジェクトとのかかわり

- ・「甲州市ティーチャーズノート」を活用した授業づくり
- ・WebQ-U、を参考にした学級、集団づくり
- ・「家庭教育・子育て」Q&A を利用した学年便りからの保護者への啓発
- ・「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習の指導、活用の推進

(4) 児童の実態を調査し、その変容を把握し指導に生かす

- ・各種学力調査、WebQ-U

5 年間校内研修計画

月/日		研究内容	TC要請
4/9	第1回校内研	昨年度までの研究の概要、今年度の研究の方向について	
4/16	第2回校内研	みらいシードWebセミナー事務局主催の研修会	
4/23	第3回校内研	リーディングDXについての講演会	
5/28	第4回校内研	Web-QU分析	
6/18	第5回校内研	リーディングDXについて外部講師の講演会	
9/3	第6回校内研	学力テストの本校の課題の分析	
9/24	第7回校内研	一人一実践について	
10/8	第8回校内研	Web-QU分析	
10/15	第9回校内研	日々の実践の発表	
10/29	第10回校内研	日々の実践の発表	
11/5	第11回校内研	授業づくり	
11/12	第12回校内研	研究紀要について、校内研のまとめ	
1/21	第13回校内研	個人研究のまとめ	
2/4	第14回校内研	今年度の研究のまとめ来年度の研究の方向について	
2/25	第15回校内研	来年度の研究の方向について	

(研究主任 輿石 晴美)